【報告書様式】　　令和５年度

団体名	連絡先　TEL：098-994-2013
糸満市立糸満小学校	Ｅメール itosyo@itomans.city.itoman.okinawa.jp

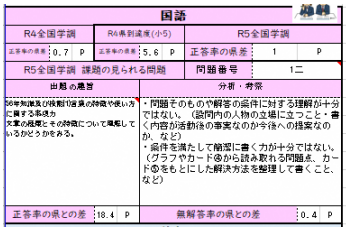
１　実践事項（②）

タイトル：「ＩＣＴを活用した「個別最適な学び」の充実に向けた学習指導」

２　実践内容

（１）児童の実態把握（４月　全国学力・学習状況調査、県「学びのたしかめ」、標準学力検査等）
（２）育成する資質・能力と「個別最適な学び」について確認（４月）
（３）研究授業実践（６月　島尻教育事務所指導主事招聘）
（４）水戸部修治先生（京都女子大学教授）との授業研究
　　（６～８月　教材・指導法の工夫改善　９月　授業研究会）
（５）効果的なＩＣＴ活用の共有・実践（一人１授業）
（６）自律的な家庭学習（自学自習）・家庭と連携した振り返り
（７）標準学力調査の実施
（８）研究の振り返り（２月　児童の変容把握、授業計画及び実践の反省及び修正）

３　説明資料（写真、グラフ、図、表など）



国語

R4全国学調	R4県到達度(小5)	R5全国学調
正答率の県差 0.7 P	正答率の県差 5.6 P	正答率の県差 1 P

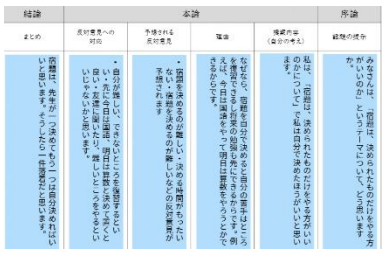
R5全国学調 課題の見られる問題	問題番号	1二
出題の趣旨	分析・考察	
66等知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方に関する系統 文章の構成とその特徴について理解している かどうかをみる。	・問題そのものや解答の条件に対する理解が十分ではない。（設問内の人物の立場に立つこと・書く内容が活動後の事実なのか予想への提案なのか、など） ・条件を満たして簡潔に書く力が十分ではない。（グラフやカードなから読み取れる問題点、カードをもとにした解決方法を整理して書くこと、など）	
正答率の県との差 18.4 P	無解答率の県との差 0.4 P	

課題の分析・把握（学調）

水戸部先生との教材研究

話し合いから「書く」意欲へ

学び合いのある授業



結論	本論				所論
まとめ	反対意見への対応	予想される反対意見	理由	根拠や証拠（自分の考え）	経験の提示
依頼は、先生が「決めてもう一つは自分で決めればいいと思います。そうしたら「作業型だと思います。	・自分が悪い・できないところを指摘するといい・友達に聞いたり、難しいところをやるといいじゃないかと思います。	・自分が悪い・できないところを指摘するといい・友達に聞いたり、難しいところをやるといいじゃないかと思います。	・「問題を決めるのが難しい・決める時間がもったいない・友達と決めるのが難しいなどの反対意見が予想されます。	なぜなら、「問題を自分で決めると言うのは本当はどうを理解できる」と言う授業の勉強先にできるからです。例えば、今日は国語をやって明日は算数をやろうとかできるからです。	私は、「問題は、決められたものだけをやる方がいいのか」というテーマについて、どう思いますか。ついて」で私は自分で決めたほうがいいと思います。	みなさんは、「問題は、決められたものだけをやる方がいいのか　というテーマについて、どう思いますか。

国語（意見文の文章構成）

家庭科（調理実習報告書）

４　成果

・国語科において「書く」指導、「個別最適な学び」につながる授業づくりに取り組むことで、児童自身が考え判断し、表現しようとする意欲が高まった。また、児童と教師のＩＣＴ活用スキルの向上にもつながり、他教科においても効果的に活用することで学習活動の幅を広げることができた。
・児童自身が学習計画を立てることで、進捗状況に応じて学習を調整し、進んで学びを深めることができる児童が増え、支援が必要な児童に対する助言や支援をする時間を確保しやすくなった。

５　課題

・各種学力調査の落ち込み項目の改善に向けた、より実践的な授業改善を進めていくこと。
・学習規律や生活面の定着、コミュニケーション能力など、自律する力の育成を工夫すること。